

2	CAS 番号：79617-96-2	物質名：セルトラリン
---	-------------------	------------

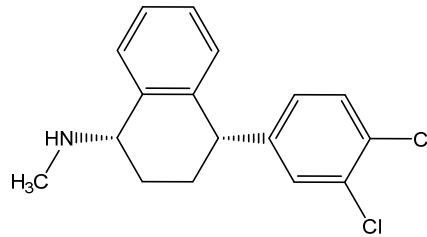
化審法官報公示整理番号：

化管法政令番号：

分子式：C₁₇H₁₇Cl₂N

構造式：

分子量：306.23



1. 物質に関する基本的事項

本物質の水溶解度は 3.8×10^3 mg/L (25°C) (pH=5.3) (塩酸塩) で、分配係数 (1-オクタノール/水) (log Kow) は 5.29 (計算値)、2.18 (塩酸塩) (計算値)、蒸気圧は 1.56×10^{-4} Pa (計算値)、 1.11×10^{-9} Pa (塩酸塩) (計算値) である。生物分解性 (好氣的分解) の情報及び、加水分解性の情報は得られなかった。

塩酸セルトラリンの主な用途は、選択的セロトニン再取り込み阻害剤である。また、塩酸セルトラリンから求めた本物質の生産数量は、2019 年において 6.5 t であった。

2. 曝露評価

本物質は化学物質排出把握管理促進法 (化管法) 第一種指定化学物質ではないため、排出量及び移動量は得られなかった。Mackay-Type Level III Fugacity Model により媒体別分配割合の予測を行った結果、大気、水域、土壤に等量排出された場合、土壤に分配される割合が多かった。

水生生物に対する曝露を示す予測環境中濃度 (PEC) は、公共用水域の淡水域では 0.0036 µg/L 程度、同海水域では概ね 0.00044 µg/L となった。

3. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類等では緑藻類 *Raphidocelis subcapitata* の生長阻害における 96 時間 IC₅₀ 12.1 µg/L、甲殻類等ではニセネコゼミジンコ *Ceriodaphnia dubia* の 48 時間 LC₅₀ 120 µg/L、魚類ではファットヘッドミノー *Pimephales promelas* の 96 時間 LC₅₀ 143 µg/L、その他の生物ではマガキ (胚) *Crassostrea gigas* の発生異常における 36 時間 EC₅₀ 60 µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 0.12 µg/L が得られた。

慢性毒性値は、藻類等では緑藻類 *R. subcapitata* の生長阻害における 96 時間 IC₁₀ 4.6 µg/L、甲殻類等ではニセネコゼミジンコ *C. dubia* の F0 世代繁殖阻害における 14 日間 NOEC 4.8 µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく PNEC 0.046 µg/L が得られた。

本物質の PNEC は、藻類等の慢性毒性値から得られた 0.046 µg/L を採用した。

PEC/PNEC 比は淡水域で 0.08、海水域では 0.01 であった。したがって、生態リスクの判定としては、現時点で作業の必要はないと考えられ、総合的な判定も同様とした。

有害性評価 (PNEC の根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	曝露評価		PEC/PNEC 比	総合的な判定
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)		
藻類等 緑藻類	慢性	IC ₁₀ 生長阻害	100	0.046	淡水	0.0036	0.08	○
					海水	0.00044		

4. 結論

	結論	判定
生態リスク	現時点では更なる作業の必要性は低い	○

[リスクの判定] ○：現時点では更なる作業の必要性は低い、▲：更なる関連情報の収集に努める必要がある、
■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない。